

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第38週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (38週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 6 例。3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2 例。
4 類感染症：デング熱 1 例、日本紅斑熱 1 例。5 類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等	
2類	結核	宮崎市	10 歳代	女	無症状病原体保有者	-	
			70 歳代	女	無症状病原体保有者	-	
			90 歳代	男	肺結核	咳、痰	
			都城	60 歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
			延岡	40 歳代	女	無症状病原体保有者	-
			小林	80 歳代	女	肺結核及び粟粒結核	発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	都城	20 歳代	女	無症状病原体保有者	O157(VT2産生)	
			日向	40 歳代	男	無症状病原体保有者	O91(VT1産生)
4類	デング熱	日向	30 歳代	男	デング熱	2日以上続く発熱、頭痛、血小板減少、白血球減少 海外渡航歴あり、血清型3型	
	日本紅斑熱	宮崎市	80 歳代	男	-	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は532人(定点当たり18.8)で、前週比84%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は伝染性紅斑で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【RSウイルス感染症】

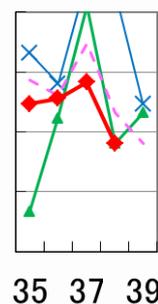
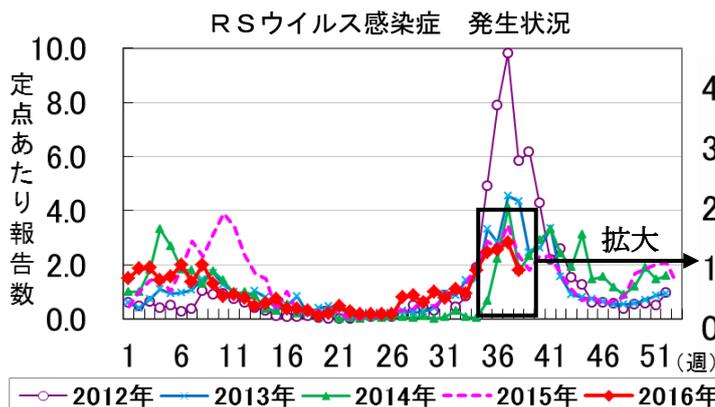
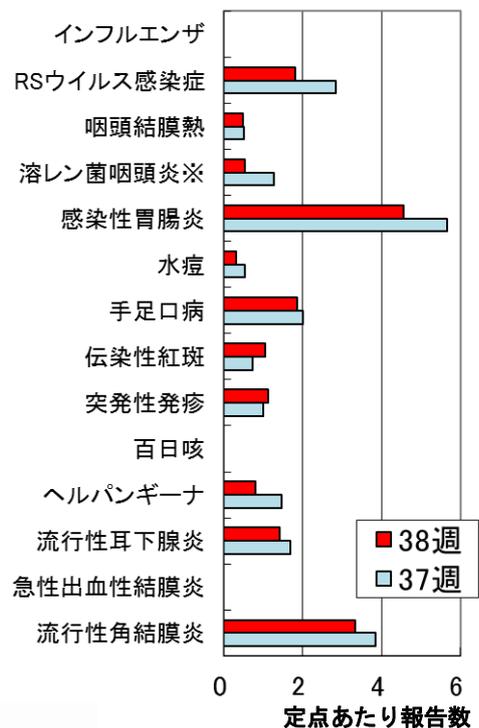
報告数は65人(1.8)で、前週比64%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(3.9)の約0.5倍であった。延岡(6.5)、日向(5.3)保健所からの報告が多く、年齢別は1歳以下が全体の約8割を占めた。

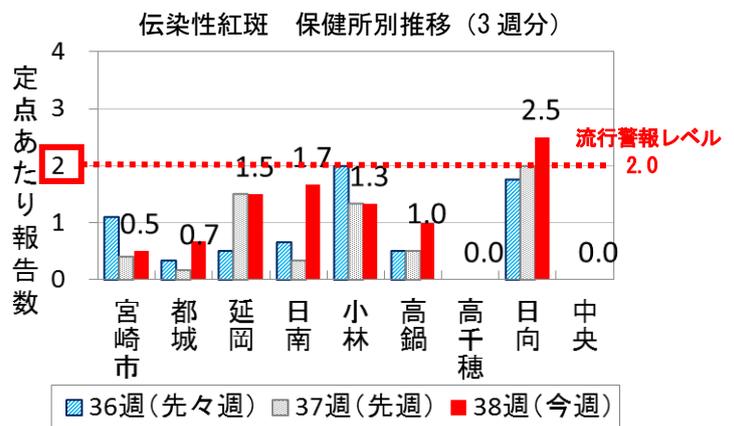
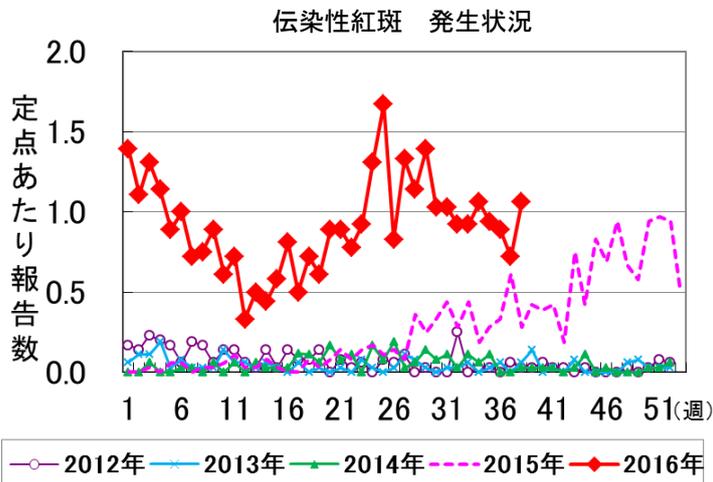
【伝染性紅斑】

報告数は38人(1.1)で、前週比146%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.23)の約4.6倍であった。日向(2.5)、日南(1.7)、延岡(1.5)保健所からの報告が多く、年齢別は別グラフに示す。

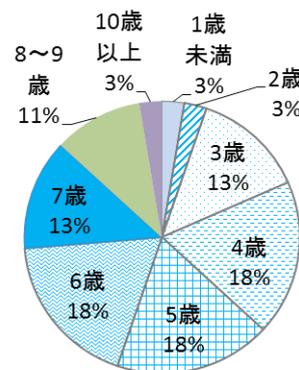
* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

《前週との比較》





伝染性紅斑 年齢群別割合



★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：都城保健所から1例報告があった。年齢は0～4歳であった。
- マイコプラズマ肺炎：日向(4例)、延岡(3例)、宮崎市(2例)、高鍋(1例)保健所から報告があった。0～4歳が3例、5～9歳が4例、10歳代が2例、30歳代が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	なし
小林	流行性耳下腺炎(3.7)
高鍋	なし
高千穂	流行性耳下腺炎(9.0)
日向	伝染性紅斑(2.5)
中央	なし

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・伝染性紅斑(2.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

＊流行注意報レベル基準値＊

- ・流行性耳下腺炎(3.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成 28 年 9 月 26 日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2016.8.18	急性気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.9.5
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	30歳代	男	2016.8.23	無症状	鼻咽頭ぬぐい液	2016.9.9
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2016.9.1	咳、喘鳴	鼻咽頭ぬぐい液	2016.9.9
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5～9歳	女	2016.9.1	咳	鼻咽頭ぬぐい液	2016.9.9
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	女	2016.9.5	気管支炎、発作性連続咳嗽、レプリーズ、チアノーゼ	咽頭ぬぐい液	2016.9.20
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	女	2016.9.5	発熱(38.0℃)、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.9.20
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	5～9歳	女	2016.9.5	咳	咽頭ぬぐい液	2016.9.20
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	女	2016.9.8	気管支炎	咽頭ぬぐい液	2016.9.20
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	女	2016.9.7	上気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.9.20
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	40歳代	女	2016.9.7	無症状	咽頭ぬぐい液	2016.9.20
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	10歳代	男	2016.9.5	-	便	2016.9.16
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0～4歳	男	2016.9.12	上気道炎、咳嗽、チアノーゼ	咽頭ぬぐい液	2016.9.16
<i>Salmonella</i> Albany (O8:z4,z24:-)	40歳代	男	2016.9.13	-	便	2016.9.22

○複数の患者から百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) が分離、検出された。百日咳菌の感染は小児に多いが、今週は1歳以下の乳児～40代の女性と幅広い年代で検出された。臨床症状を見ると、1歳以下の乳児では特有の症状が見られるが、小児や成人では百日咳特有の症状を示さないこともあるため、気づかずに保菌者となっていることもある。家族や周囲に百日咳の患者が見られた場合には、感染源とならないよう注意が必要である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ライノウイルス	0～4歳	男	2016.07.27	夏かぜの疑い、38.5℃(不明熱)	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
ライノウイルス	0～4歳	男	2016.08.01	不明熱(9日目)、40.0℃、気管支炎、鼻水、痰、咳、喘鳴(+)	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
ライノウイルス	5～9歳	女	2016.08.24	百日咳疑い、下気道炎、咳込み嘔吐(咳:2週間前から)	咽頭ぬぐい液	2016.09.15
ライノウイルス	5～9歳	男	2016.08.24	百日咳疑い、下気道炎(気管支炎)、咳込み嘔吐(咳:3週間前から)	咽頭ぬぐい液	2016.09.15
ライノウイルス パラインフルエンザウイルス1型	0～4歳	男	2016.08.23	百日咳、ウイルス感染症、39.6℃、上気道炎(咽頭炎)、連続性咳嗽、けいれん様の動き	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
パラインフルエンザウイルス1型	0～4歳	男	2016.08.31	不明熱、38.6℃、気管支炎、咳、喉の痛み	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	男	2016.08.02	不明の発疹症、38.3℃、気管支炎、紅斑	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	男	2016.08.04	集団かぜ、39.8℃、気管支炎、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	男	2016.08.22	喘息様気管支炎、39.4℃、気管支炎、喘鳴	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2016.08.27	集団かぜ、39.2℃、上気道炎、下痢、咳、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.09.15
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2016.08.27	集団かぜ、39.6℃、上気道炎、下痢、鼻水	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	男	2016.08.30	喘息様気管支炎、38.5℃、気管支炎、咳	咽頭ぬぐい液	2016.09.14
RSウイルス	0～4歳	男	2016.08.30	39.6℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2016.09.15
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.07.04	不明の発疹症、39.0℃、発疹(丘疹)、下痢	咽頭ぬぐい液	2016.09.23
パレコウイルス3型	0～4歳	男	2016.08.08	急性心筋炎、40.0℃、ショック症状(低血圧、循環不全)、循環器障害(心筋炎、心不全)	咽頭ぬぐい液	2016.09.23
パレコウイルス1型	0～4歳	女	2016.07.23	エンテロ疑い、40.8℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2016.09.23
ムンプスウイルス	0～4歳	男	2016.08.08	無菌性髄膜炎、髄膜炎(頸部硬直)	髄液	2016.09.13
エコーウイルス6型	0～4歳	女	2016.09.11	無菌性髄膜炎疑い、39.0℃、髄膜炎、活気低下	便 髄液	2016.09.26
デングウイルス3型	30歳代	男	2016.09.21	デング熱疑い、39.3℃、肝機能障害	血清	2016.09.23

○海外渡航歴のある成人男性からデングウイルス3型が検出された。デングウイルスには1型から4型までの4種の血清型が存在し、国内での検出はデングウイルス1型、2型が多くなっている。デングウイルスは、デング熱・デング出血熱の起因ウイルスとして知られているが、感染者の50～80%は不顕性感染に終わるといわれている。症状は突然の発熱で始まり、頭痛、筋肉痛・関節痛を伴うことが多く、比較的軽症ですむことが多い。デングウイルス初感染の場合、感染した血清型のデングウイルスに対して終生免疫を獲得するが、再感染で終生免疫を獲得した血清型以外のデングウイルスに感染すると、出血傾向やショック症状を呈する重症のデング出血熱となる確率が高くなるため、注意が必要である。

○乳児1名、幼児4名からライノウイルスが検出された。ライノウイルスは風邪の代表的なウイルスとして知られており、ライノウイルスによる炎症は、通常上気道に限局される。しかし、下気道にも炎症が及んでいる場合、気道過敏性の亢進が考えられ、肺炎や気管支炎など重症化する可能性もある。

🇯🇵 全国 2016 年第 37 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 37 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	356 例				
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	119 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E 型肝炎	5 例	A 型肝炎	3 例	オウム病	1 例
	重症熱性血小板減少症候群	5 例	つつが虫病	1 例	デング熱	10 例
	日本紅斑熱	3 例	ブルセラ症	1 例	マラリア	2 例
	レジオネラ症	31 例	レプトスピラ症	2 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	11 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	24 例
	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 例
	後天性免疫不全症候群	22 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	12 例
	水痘（入院例）	4 例	梅毒	59 例	破傷風	1 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2 例	風しん	3 例	麻しん	21 例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例				

麻しんの報告数は 21 例で前週比約 0.9 倍と減少した。大阪府(11 例)、東京都(3 例)、神奈川県、和歌山県（各 2 例）からの報告が多く、九州地方からの報告はなかった。年齢別では 20 歳代が全体の約 4 割を占めた。

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 103% とほぼ横ばいであった。前週と比較して増加した主な疾患は RS ウイルス感染症と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。減少した主な疾患は伝染性紅斑とヘルパンギーナであった。

流行性耳下腺炎の報告数は 3,366 人(1.1) で前週比 108% と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.40)の約 2.7 倍であった。富山県(3.7)、新潟県(3.6)、熊本県(2.6)からの報告が多く、年齢別では 4~5 歳が全体の約 3 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第38週(9月19日～9月25日)

疾病名		第37週	第38週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	102	65	16	1	26	1				21	
	定点あたり	2.83	1.81	1.60	0.17	6.50	0.33	0.00	0.00	0.00	5.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	18	17	5	2	3	1		1	2	3	
	定点あたり	0.50	0.47	0.50	0.33	0.75	0.33	0.00	0.25	2.00	0.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	46	19	7	2	2	1	1	2		2	2
	定点あたり	1.28	0.53	0.70	0.33	0.50	0.33	0.33	0.50	0.00	0.50	2.00
感染性胃腸炎	報告数	204	164	44	44	4	14	19	15	2	20	2
	定点あたり	5.67	4.56	4.40	7.33	1.00	4.67	6.33	3.75	2.00	5.00	2.00
水痘	報告数	19	11	3	1	3	2	1	1			
	定点あたり	0.53	0.31	0.30	0.17	0.75	0.67	0.33	0.25	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	72	67	22	3	18	8		1		15	
	定点あたり	2.00	1.86	2.20	0.50	4.50	2.67	0.00	0.25	0.00	3.75	0.00
伝染性紅斑	報告数	26	38	5	4	6	5	4	4		10	
	定点あたり	0.72	1.06	0.50	0.67	1.50	1.67	1.33	1.00	0.00	2.50	0.00
突発性発しん	報告数	36	40	13	6	4	6	4	4		2	1
	定点あたり	1.00	1.11	1.30	1.00	1.00	2.00	1.33	1.00	0.00	0.50	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	53	29	3	2	9	5	1	1		7	1
	定点あたり	1.47	0.81	0.30	0.33	2.25	1.67	0.33	0.25	0.00	1.75	1.00
流行性耳下腺炎	報告数	61	51	8	5	3	1	11	5	9	9	
	定点あたり	1.69	1.42	0.80	0.83	0.75	0.33	3.67	1.25	9.00	2.25	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	23	20	17	3							
	定点あたり	3.83	3.33	5.67	1.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	6	10	2		3			1		4	
	定点あたり	0.86	1.43	2.00	0.00	3.00	0.00	0.00	1.00		4.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～38週)

2類感染症	結核	154例(6)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	12例(2)				
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	3例	重症熱性血小板減少症候群	7例
	つつが虫病	6例	デング熱	1例(1)	日本紅斑熱	4例(1)
	レジオネラ症	1例				
5類感染症	アメーバ赤痢	12例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4例
	急性脳炎	10例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	5例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	2例	梅毒	8例	播種性クリプトコックス症	3例
	破傷風	1例				

()内は今週届出分、再掲